

日本とちょっと違うよ - 通訳者よもやま話 - Vol.7 英語担当 野村さん

アメリカは留学したことがあり、25年来の親友が住んでいるため頻りに訪れる私にとって身近で親しみのある国です。「日本と違う」一つ目は、スーパーの店員さんの「対応の差」です。アメリカでは話好きでフレンドリーな方が多く、レジでは「ハイ、週末楽しかった?」「あら!このお菓子は私も大好き、おいしいですよ!」等、いつも満面の笑顔でご機嫌、気持ちの良い接客をされる方がいるかと思えば、その真逆で終始無言、不機嫌、笑顔なし、商品の扱いもなんだか雑…な方もおられます。日本の接客ではここまでの差はないですよ。均質化した日本の接客と比べて、こんな違い一つにもアメリカらしさを感じます。それぞれの国の文化が詰まったスーパーへ行くのは、海外へ行った時の楽しみの一つです。



二つ目は、医療費と保険についてです。以前通訳を担当したアメリカ人の患者さんは、関節リウマチで定期的に通院していました。自国で同レベルの治療を受ければ月30万円近くかかるのに、日本では1/10の費用だ、安心して治療に取り組めると日本の医療制度を絶賛されていました。また、アメリカに住む友人は医療保険に個人で毎月1,000ドル(14万円)支払っていると言います。

アメリカは医療費も保険料も高額で有名です。例えばNYで盲腸での入院治療は1~3日で14,000~41,000ドル(約200万~580万円)、救急車を呼ぶと1,000ドル以上(14万円~)。国民皆保険制度がなく、民間保険に費用をかけた人だけが質の高い医療を享受できる圧倒的な医療格差があります。現在、自己破産の原因の第一位が「医療費」というアメリカ。背景には、政府からの強制を嫌い「自分の保険は自分で準備」と自由を尊ぶ国民性があるとのこと。日本の保険制度に慣れている私達には、想像もつかない現実があるようです。



通訳者からのおススメ ~Vol.2~



映画「コーダ あいのうた」

「コーダ (CODA)」という言葉は、まだ日本では聞き慣れないかもしれませんが。「Children of Deaf Adults」、耳の聞こえない親の元で育つ子どものことです。主人公のルビーは家族の中で唯一耳が聞こえるため、幼いころから「家族」と「外の世界」をつなぐ役割です。

医療通訳に携わっていると、映画のちょっとしたシーンに反応することがあります。例えば診察室の場面で、ルビーが医師の前でも感情を隠さず、両親にわざと違う内容を通訳するのを見てドキッ! (後でちゃんと伝えたのを見てホッ!)

また、「私は生まれてからずっと通訳だった!」と憤ったルビーの言葉に「子どもに頼らないで…」と心が痛むなど、同じ通訳者として「家族のために通訳をすること」について改めて考えさせられるものがありました。

と、シリアスなことを書きましたが、コミカルな部分あり、涙がホロリあり、ルビー一家と一緒に前に向かって進んでいく気持ちになる映画です。

今月のピックアップ

「通訳者の健康管理」

医療通訳者は、日頃から医療や健康に関する知識を得るためにさまざまな学びを深めているからか、健康意識の高い人が多いです。ヨガやランニングを長年続けている人もいれば、ラジオ体操やNHK「みんなの体操」を継続して行っている人、自律神経のバランスを整える自律訓練法や寝る前のストレッチ等で一日のすべてをリセット!という人もいます。

また、体だけでなく心の健康のためにと、「瞑想アプリ」なるものでストレス軽減、心身のリラックスを図る人も。アプリではアメリカ発「CALM」が良いらしいですが、日本版もたくさんあるようです。一度試してみたいですね。

その一方で、先日のAED講習受講時に、1分間に100回ほどの速さで胸骨を圧迫しなければならぬのですが、必死に何回押してもクリアのランプがつかない…筋力をつけないとざという時に人を助けることもできないと悔しがる通訳者もいました。知識や意識だけでなく実践してこそその健康管理、と実感したようです。

そして通訳と言えば、やはり「話す」仕事であるために顔の筋トレも大事な健康法の一つです。通訳する時にしっかり発音できるように口を動かし、口の周辺の筋肉を鍛えることが大切です。日本語にはない発音の練習もあるため、腹式呼吸で声をはっきり出す練習をするうちにお腹がどんどん空いてくるとか😊

秋も深まり、乾燥も進んできました。それぞれの健康法で体も心も潤して寒い季節を乗り切りたいものです。

